

## 福岡大学病院 多剤耐性アシネトバクター・バウマニの集団感染に関する概要

### 1. 医療機関

医療機関名：福岡大学病院

所在地：福岡市城南区七隈七丁目 4 5 - 1

院長：内藤正俊

病床数：9 1 5 床

### 2. 集団発生の状況（平成 2 0 年 1 0 月 3 1 日から平成 2 1 年 1 月 2 8 日まで）

多剤耐性アシネトバクター・バウマニ感染患者 2 6 名

うち、4 名は死亡（多剤耐性アシネトバクター・バウマニと死因との因果関係は不明）

### 3. アシネトバクター・バウマニ (*Acinetobacter baumannii*)

自然界の土壌や水中、野菜等に広く分布している細菌。一般的に毒性は弱く健常者は感染しないが、抵抗力の弱い患者等において重篤な感染症を引き起こす場合がある。多剤耐性のもの（複数の抗菌薬に耐性を示すもの）については、治療困難な事例が海外を中心に報告されている。国内では本菌による感染事例の報告は少ない。

#### 4. 事案の経過

平成20年

10月20日 韓国で低血糖意識消失発作にて入院していた患者（66歳男性）が、福岡大学病院の救命救急センターへ搬送入院

31日 患者死亡（肺炎）

12月 1日 病院が救命救急センターで多剤耐性アシネトバクター・バウマニ感染患者の散発を確認

～ 病院が院内の環境調査、感染対策のための臨時会議を開催

平成21年

1月 5日 病院が2回目の院内の環境調査で多剤耐性アシネトバクター・バウマニを検出し、病院長へ報告

8日 病院が院内の感染対策委員会で多剤耐性アシネトバクター・バウマニの集団感染を報告

～ 病院が感染患者の情報収集、感染経路調査、感染対策等を実施

15日 病院が病棟で多剤耐性アシネトバクター・バウマニの新たな感染患者を確認

16日 病院が救命救急センターで多剤耐性アシネトバクター・バウマニの新たな感染患者を確認

病院が多剤耐性アシネトバクター・バウマニに関する院内の第1回感染対策調査委員会を開催

19日 病院が院内の第2回感染対策調査委員会を開催

20日 病院が福岡市城南保健所に報告

21日 福岡市城南保健所が立入調査を実施し、病院長に対して院内感染対策の徹底、早急な原因究明、迅速な報告を指導

病院が九州厚生局に報告、厚生局が厚生労働省医政局指導課に報告

22日 厚生労働省医政局指導課が福岡市城南保健所を經由し福岡大学病院に対し、感染患者の転院した医療機関（6病院）に感染患者の情報提供と隔離管理の指導を早急に行うよう指示

病院が感染患者の転院した医療機関に電話連絡

23日 病院が感染患者の転院した医療機関を訪問して詳細を説明

厚生労働省医政局指導課から各都道府県に対し、本事案の情報提供を行うとともに、多剤耐性アシネトバクター・バウマニ等による院内感染防止体制の徹底を指導するよう事務連絡を発出した。

九州厚生局が福岡大に立ち入り検査。院内感染対策の現状把握と指導。

25日 国立感染研 森兼先生が現地入りし、現場視察と転院した患者の病状確認と対策についての助言を行った。

28日 福岡大関係者、福岡市保健所、九州厚生局、国立感染研 FETP（実地疫学調査）合同による疫学調査を開始。

## 5. 福岡大学病院における院内感染事例

福岡大学病院では平成20年5月23日にもVREの集団感染（19年10月～20年3月に15名）が発生しており、福岡市城南保健所は、複数回の立入調査を行い、院内感染対策の徹底について指導を行っていたところ。

## 6. 事案発生後の対応

### (1) 福岡大学病院

- ・ 感染経路、原因究明のための詳細調査（国立感染研究所の実地疫学調査チーム（FETP）に調査への協力を依頼）
- ・ 外部委員を含めた院内感染対策委員会を開催
- ・ 院内感染対策を徹底・強化

### (2) 厚生労働省

- ・ 各都道府県に対し、本事案の情報提供を行うとともに、多剤耐性アシネトバクター・パウマニ等による院内感染防止体制の徹底を指導するよう、平成21年1月23日付けで事務連絡を発出。
- ・ 国立感染症研究所FETPから報告を受けるとともに、院内感染対策中央会議を開催し、今後の対策等について検討。
- ・ 必要に応じて、県内や国内の感染状況調査・研究等を行う。